

2022. 8. 26 (金) 19:00～
会場 市役所竹野庁舎 大会議室

豊岡市立小中学校適正規模・ 適正配置計画 (施設一体型小中一貫校への再編)

竹野地域住民 説明会

豊岡市教育委員会事務局



1

次第

- 1 あいさつ
- 2 これまでの経過
- 3 計画の内容
- 4 施設一体型小中一貫校について
- 5 保護者の意見
- 6 今後の予定(案)
- 7 (参考)地域デザインプラン
- 8 意見交換
- 9 アンケート

2

1 あいさつ



3

竹野地域小学校統合 要望書提出から統合までの流れと
豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画の策定経過

年度	竹野小	中竹野小	竹野南小	計画策定の経過
2019	12/17 竹野小整備説明会 〔保護者〕 1/30 竹野小整備説明会 〔地区〕			2/3 審議会設置 2021年2月10日まで(計7回)
2020		9/18 要望書提出	2/22 要望書提出	9/28 中間案意見交換会〔保護者〕 10/29 中間案意見交換会〔地域〕 2/10 審議会より答申
2021	4/26 第1回竹野地域小学校統合準備委員会開催 11月11日まで(計4回)			7/9 答申説明会 11/29 計画案説明会 11月～12月 パブリックコメント 12月末 計画策定
2022	4月 竹野小学校、中竹野小学校、竹野南小学校が統合			8/2 計画説明会〔保護者〕 8/26 計画説明会〔地域〕

4

2 これまでの経過

5

これまでの経過

➤ 竹野小学校の老朽化

- 2018年度 竹野小学校の耐力度調査を実施

建替が必要な時期を迎えている

国の交付金事業上は「構造上危険な状態にある建物」にあたる
(耐震補強済であり、「直ちに倒壊する危険がある」というものではない。)

竹野小学校耐力度調査結果と
今後の整備方法について

- 2019年12月 保護者向け説明会 (旧竹野小校区対象)
- 2020年1月 地区住民向け説明会 (旧竹野小校区対象)

➡ 「学校再編の計画とあわせて検討するべきではないか」
との意見

6

これまでの経過

➤ 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画

- 2020年2月～2021年2月 審議会
- 2020年9月～10月 小中学校のあり方意見交換会 (中間案)
- 2021年7月 答申説明会
- 2021年11月～12月 計画(案)説明会
- " パブリックコメント

竹野では施設一体型小中一
貫校とする案を提示

➡ 2021年12月 計画策定
市広報 2022年3月号でも周知

7

審議会での意見

- ・ 小規模校の良さは認めるものの、複式学級が生じるほどの極小規模になると課題の方が大きい。
- ・ 子どもたちには多様な意見に触れ、いろいろな体験をしてほしい。
- ・ 保護者の不安の多い複式学級の解消を最優先とするべき。

審議会での意見を尊重しつつ、説明会等で寄せられた意見を踏まえて
計画を策定

➡ 「次代を担う豊岡の子どもたちにとって、より良い教育環境
とするために、学校はどうあるべきか」

8

3 計画の内容

9

学校規模適正化の必要性

- 1 学校の規模は、学習面、生活面、学校運営面など様々な影響を与えます。
- 2 公教育の観点から市内のどの学校でも、教育水準・教員の配置などの教育条件・教育環境について一定の水準を満たし、公平に提供するよう努めなければなりません。
- 3 個性を発揮させ、主体性や多様性を培うためにも、ある程度の集団規模での教育環境が日常的に確保されるべきであると考えます。

10

基本的な考え方

- 1 国の学習指導要領「主体的・対話的で深い学びの実現」
- 2 複数学級の確保
- 3 市のめざす教育
 - ・コミュニケーション能力の向上
 - ・非認知能力の向上（やり抜く力・自制心・協働性）
- 4 集団での教育活動等の充実
- 5 教員の人数の確保と質の向上

11

学校再編の基本方針

- 1 学校統合
 - (1) 最優先 既に複式学級が生じている小学校
 - (2) 優先 ・将来的に複式学級が生じると見込まれる小学校
・小規模化により課題が生じる中学校
 - (3) 将来的な検討（略）
- 2 施設一体型小中一貫校として再編・整備（要件が満たされる場合）

◆計画の進め方

保護者や地域住民との十分な合意形成を図りながら進めます

12

竹野地域の学校再編

豊岡市立小中学校 適正規模・適正配置計画 スケジュール

地域	対象校	前期					後期					10年後以降（令和14年度以降）	
		令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度	令和9年度 2027年度	令和10年度 2028年度	令和11年度 2029年度	令和12年度 2030年度		令和13年度 2031年度
竹野	竹野小	107人	137人										
	中竹野小	23人	2022年度 児童数見込 児童 141人 学級数 6										
	竹野南小	23人											
	竹野中				75人	2025年度 施設一体型小中一貫校 開設 児童 129人 学級数 6 生徒 67人 学級数 3							

※竹野中学校の敷地内に整備
施設一体型小中一貫校

・中竹野小学校、竹野南小学校は2022年4月に竹野小学校に統合。

施設一体型小中一貫校とする理由

- 竹野中学校についても小規模化が進んでいるが、竹野地域では、地理的要因等から小中学校とも、これ以上の再編は難しい。
- 施設一体型小中一貫校とすることで、様々な教育効果が期待できる。
 - ・4-3-2制などの学年段階の設定
 - ・地域の特色を生かしたカリキュラムの導入 など

13

竹野地域内の子どもの数

2022年度

小学校区別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児 (幼)	就学前 児童数	6歳児 (小1)	7歳児 (小2)	8歳児 (小3)	9歳児 (小4)	10歳児 (小5)	11歳児 (小6)	小学生 児童数
竹野小	15	17	24	15	18	26	115	19	31	24	20	33	16	143

中学校区別	12歳児 (中1)	13歳児 (中2)	14歳児 (中3)	中学生 生徒数
竹野中	28	30	24	82

0～5歳児 2022年4月7日時点の住民基本台帳登録者数
小1～中3 2022年5月1日時点の各校の在籍者数

14

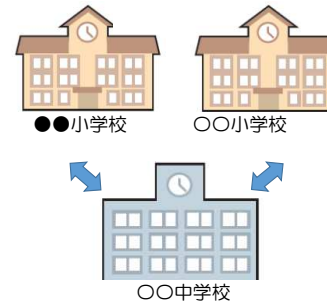
4 施設一体型小中一貫校について

施設一体型小中一貫校について

小中一貫教育の取組

小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して、体系的な教育を目指します。

小中一貫教育
(豊岡市ではすべての学校で実施中)



市のこれまでの小中一貫教育(施設分離型)

施設一体型小中一貫校
(竹野と但東で整備)

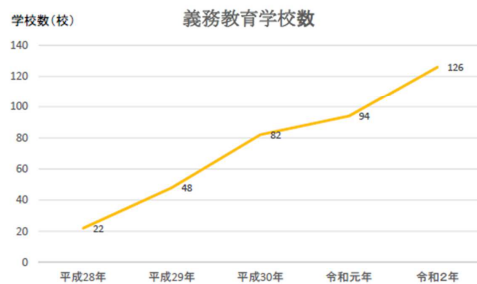
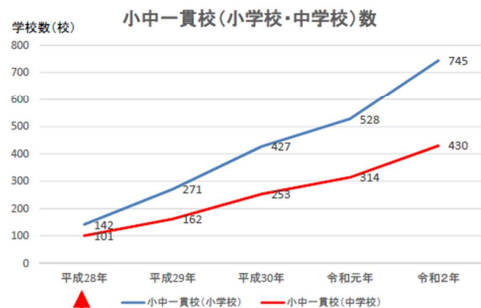


- ・小中一貫校 (〇〇小+〇〇中)
または
- ・義務教育学校 (〇〇学園) 9年制

16

15

小中一貫教育の導入校数



改正学校教育法施行

改正学校教育法施行

小中一貫校(中学校は)4年間で4.1倍に
義務教育学校は5.7倍に増加

出典：学校基本調査(文部科学省)
※国立、公立、私立の合計数

出典：国立教育政策研究所 | 文教施設講演会資料 17

施設一体型小中一貫校について

施設一体型小中一貫校だからできること

1. 地域の特色を生かした9年間の教育課程を編成
 - (1) 柔軟な学年段階の区切りの設定が可能
6-3制→4-3-2制など
 - (2) 特色を生かしたカリキュラム
(例)「ICT」「英語」「ふるさと教育」(他の学校よりも特化)
「たけの科」など独自の科目の新設も可能
 - (3) 中学教員による小学校での乗り入れ授業
 - (4) 小中合同での活動(運動会、小学生の部活動への参加等)

18

施設一体型小中一貫校について

施設一体型小中一貫校による効果(小中一貫教育の取組をより効果的に)

1. 中1ギャップの解消
2. 9年間一貫した育み
3. 中学生…上級生としての自覚、思いやり
小学生…中学生へのあこがれ、目標など

19

小中一貫教育を導入した成果

- (学習面)
 - 勉強が好きと答える児童生徒が増えた(71%)
 - 全国学力・学習状況調査の結果が向上した(61%)
- (生徒指導面)
 - 中学校への進学に不安を覚える児童が減少した(96%)
 - 上級生が下級生の手本になろうとする意識が高まった(94%)
- (教職員の協働)
 - 小・中学校共通で実践する取組が増えた(98%)
 - 教員の教科指導力の向上につながった(87%)

※H29調査において、公立学校で、「大きな成果が認められる」「成果が認められる」と回答した割合
「小中一貫教育の導入状況調査(文部科学省実施 平成29年3月1日時点)」参照

出典：国立教育政策研究所 | 文教施設講演会資料 20

施設一体型小中一貫校の課題

- ・ 児童生徒の人間関係の固定化（特に小規模校）
- ・ 施設・スペース（体育館、グラウンド等）の確保及び使用時間の調整
- ・ 校舎間等の移動、活動に伴う児童生徒の安全の確保
- ・ 小学生高学年のリーダー性・主体性の育成
- ・ 登下校時間、授業時間の違い

出典：国立教育政策研究所 | 文教施設講演会資料

その他

特色のあるカリキュラム等導入前後の教員の負担増
他の校区への転入・転出時の学習段階の違いの調整等

21

施設一体型小中一貫校について

先進事例 1：福知山市立夜久野小学校、夜久野中学校（小中一貫校：夜久野学園）

教育課程特例校として英会話コミュニケーション科を創設



地域の人々とのかかわりを通して、子どもたちはふるさと夜久野のことについて学び、夜久野を愛する心を育てます。



22

施設一体型小中一貫校について

先進事例 2：養父市立関宮学園（義務教育学校）

2020年4月に養父市立関宮小学校と養父市立関宮中学校が統合して開校した、但馬では初の義務教育学校です。

聞いてみました！

Q. 義務教育学校となり、子どもたちにとって良かったことは？

A. 専門の先生の指導が受けられること

乗り入れ授業による専門教師の授業の実現

後期（中学校）→前期（小学校） 音楽 国語 体育 図工
前期（小学校）→後期（中学校） 家庭科 技術

※合同の校内研修による教師の個の力量向上の効果も

23

施設一体型小中一貫校について

先進事例 2：養父市立関宮学園

聞いてみました！

Q. 小中一貫教育の観点から、中1ギャップの解消など具体的に効果は上がっているか。

A. 毎週水曜日に6年生が後期課程校舎に登校するため、中1ギャップはほとんど無いと思う。

Q. 義務教育校としての特色ある教育はどのようなことを行っているか。

A. 「ふるさと科」を創設し

前期 関宮の伝統や文化を伝える

後期 関宮の自然や伝統を生かして未来に生きる

（起業精神を育む）

に取組んでいる

24

施設一体型小中一貫校について

先進事例 2 : 養父市立関宮学園

関宮学園



運動場の面積比較

関宮学園	竹野中学校
約14,500㎡	約16,500㎡

※面積はインターネットの地図上での計測

25

整備の検討(イメージ)



※新たに整備する棟のおおよその位置を示したものです

26

整備の検討(案)

- 中学校の敷地内に次のような機能を設ける
 - 1 低学年棟の整備
(小1~小4、小5~中1、中2~中3と学習段階に応じてグループ分け)
 - 2 特別教室等、必要な教室の整備
 - 3 複合的な施設(部屋)の整備
 - ・放課後児童クラブ
 - ・ボランティアルーム等(地域にも開放)
 - 4 遊具の整備、その他必要な機能の整備
- プールは整備しない
竹野BGのプールが利用できないか調整
- 現在の竹野小学校の跡地の利活用検討
地域デザイン懇談会であげられた意見を踏まえて、市の関係部署で検討を始めています。

・管理者がいない状況であれば竹野小のプールは使用できない(安全面・衛生面で課題)
・事業者による専門的な指導も検討

27

5 保護者の意見

※ 8月2日開催 保護者向け説明会から

28

保護者の意見

意見交換・アンケートより（抜粋）

- 竹野中学校敷地内での小中一貫校には賛成。子どもたちにより良い教育環境を提供できればと思う。
- 小中一貫になってみないとわからないことも多いと思う。（計画の内容で）良いと思う。（自分も中1ギャップと同級生の少なさが辛かった。早いうちから慣れさせるのは良いと思う。）
- 少子化が進むことが目に見えているので、基本的には賛成。
- もう少し検討していく時間がほしい。無理に2025年にスタートでなくてもいい。
- 大切なことなのでもっと周知が必要。
- 部活動とクラブ活動がかぶることがある。児童の遊ぶ場所も含めて確保が必要。
- この先、BGも無くなることも見えてきている。スポーツクラブ等の活動の場の確保も含め、「学校」だけで考えるのではなく、地域全体のこととして検討してほしい。
- 移転した場合の跡地利用が決まらない（案が示されない）まま、移転が先行して決定してしまうことのないようにしてほしい。移転が決まってから跡地利用を考えるのは、竹野地区住民としては納得されない方が多いと思う。

※市のHPには、意見交換の内容や、アンケート結果（全体分）を掲載しています



29

6 今後の予定(案)

時 期	内 容	
2022年8月26日(金)	住民向け説明会	
住民向け説明会以降	保護者代表、地域代表等との協議	
2023年度	竹野小中一貫校検討委員会(仮称)の設置 ・特色のある教育の検討 (例:英語、ICT、ふるさと教育など)	設計
2024年度	・課題の抽出、対応策の検討 ・PTA組織・行事の検討 ・学校と地域の連携協働 など	工事
2025年度	施設一体型小中一貫校 開校	

30

7 参考 地域デザインプラン

地域デザイン懇談会

昨年、竹野地域の公共施設のあり方について、参加された皆さまと、全6回にわたりワークショップを通して意見交換を行った。

- ◆ねらい
 - ・公共施設をスリム化
 - ・本当に必要な機能はなにかあった方がいい ⇒ 本当に必要なもの
 - ・公共施設のハコは減らしても、サービス(機能)は減らさない ⇒ 機能の集約(複合化)

※懇談会を通じて生まれた意見・アイデアを取りまとめ、竹野地域デザインプランを作成(2022年3月) → 市ホームページに掲載

豊岡市地域デザインプラン
【竹野地域】



豊岡市役所公共施設マネジメント推進室 31

地域デザイン懇談会

参考意見・アイデア(竹野小学校関係抜粋)

【意見・アイデア①】

竹野小の跡地はB&Gの代替施設として利用出来るのでは。

→コンセプト：地域に開かれた体育施設ー「統合」

- ◆学校教育系施設の体育施設を、老朽化したスポーツ・レクリエーション施設の機能の移転先とする。

【意見・アイデア②】

竹野地区の避難所としての利用。

→コンセプト：地域の防災拠点ー「譲渡」

- ◆立地に合わせた利活用(民間利用、リース契約など)を検討し、地区の避難所として利用できる協定を民間企業と結ぶなど、地域と一体化した活用を検討していく。

32